

北里大学病院・北里大学東病院（旧）を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (受付番号/承認番号)	線維柱帯切除術における前眼部光干渉断層計を用いた角膜全面惹起乱視の検討における後方視的観察研究 (B22-50)
当院の研究責任者 (所属・職位)	医学部眼科学 教授 庄司 信行
他の研究機関および 各施設の研究責任者	他の研究機関はありません。
本研究の概要・背景・目的	緑内障手術の一つに線維柱帯切除術 (trabeculectomy) があります。線維柱帯切除術とは眼の強膜に弁を作成 (強膜弁) してその下部にある虹彩と線維柱帯の輪部組織の切除を行ってから強膜弁を縫合して濾過量を調整し眼圧をコントロールする手術方法です。線維柱帯切除術は、良好な眼圧下降効果がある一方、手術手技による影響により乱視が増加し術後の QOV (Quality of vision) が低下することがあります。今まで乱視の評価方法は、角膜前面のみ形状を参考にして全体の乱視を算出してきました。しかし、前眼部光干渉断層計の登場により角膜の詳細な形状が取得できるようになったため、角膜前面のみを使用していたこれまでの乱視度数と詳細に得られた角膜情報からの乱視度数は大きく異なる可能性があります。今回線維柱帯切除術を施行した症例の惹起乱視を角膜全面形状で評価することで詳細で正確な乱視を得られ、線維柱帯切除後症例の QOV の向上へと繋げることを目的としています。
調査データ 該当期間	2020年3月1日から2022年6月2日までの情報を調査対象とします。
対象となる患者さま	上記期間内に線維柱帯切除術を施行し術後眼科診療を終了された緑内障の方
研究の方法 (使用する試料等)	利用する情報 2020年3月1日から2022年6月2日までの電子カルテに記載のある診療記録、眼科検査データ (裸眼視力・矯正視力・屈折度数・角膜乱視度数・眼圧) を利用します。
試料/情報の 他の研究機関への 提供 および提供方法	他の機関への試料・情報の提供はありません。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。本研究の費用は眼科学医局研究費を使用します。研究に関する利益相反は、北里大学利益相反委員会で審査を受け適切に管理されます。
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので申し出下さい。

また、診療情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた試料・情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属・職位：病院眼科・一般

担当者：安藤和歌子（アンドウワカコ）

電話：042-778-8464

備 考